

天台山（てんだいさん）は、中国浙江省東部の天台県の北方 2km にある霊山である。最高峰は華頂峰で標高 1,138m。洞栢峰・仏隴峰・赤城峰・瀑布峰などの峰々が存在する。中国三大霊山（五台山・峨嵋山（がびざん）・天台山）の一つ。仏教との関係では、天台智顛、(538-597)が 575 年からこの天台山に登って天台教学を確立した。601 年ごろ天台山で、国清寺を修復して教団の生活規定を制定した。

法華経を根本經典とした中国天台宗の開祖智顛ゆかりの地として、古くから仏教信仰を集めている。仏隴峰の南山麓に天台大師（智顛）の国清寺がある。天台山は、古来より天台山と表記されている。ただし、天台山の名は日本では日本天台宗山門派の総本山の比叡山（滋賀県大津市）の別名として使われることもある。

天台山の寺院は国清寺・大慈寺・天封寺・真覚寺・方広寺・高明寺・華頂寺など。

天台山国清寺は天台宗発祥の地である。

中国の隋の時代、西暦 598 年建立。当初の名称は天台寺であったが、隋の煬帝皇帝の時代に「国清寺」の名を授けられた。現存する伽藍は清の時代 1734 年に勅命により再建されたもの。1973 年中国国務院の出仕により全面的な修理が行われた。総面積 7.3ha、殿堂など家屋数は 600 軒以上。の大寺院である。

天台大師智顛は第三祖であるが実質的には天台宗開祖である。日本の天台宗開祖である伝教大師最澄(西暦 804 年入唐)し、智証大師円珍(西暦 853 年入唐)、栄西禅師ほか多くの日本の僧侶がここを訪れている。

永福禅寺の福住職の悟灯（ウ デン）さんに案内されました、悟灯さんは、ここで出家したとの事。

悟灯さんは、現在は大谷大学の大学院の学生で博士号を取得のため、勉学に励んでいます。

天台宗は龍樹を初祖とし慧文を第二、慧思を第三、智顛を第四祖する。

天台智者大師、智顛（ちぎ）（538 年-597 年）を実質的な開祖とする大乘仏教の宗派であり大乘仏教で妙法蓮華経（法華経）を根本經典する。（鳩摩羅什訳）

日本天台宗は道邃（どうすい）と行満が出て、彼等が最澄に天台教学を伝えた。日本の天台宗は禅や戒、念仏、密教延暦寺は四宗兼学の道場。

天台山 国清寺



国清寺の入り口



隋代古刹（ずいだいこさつ）



素朴な山門



雨花殿



鐘楼



鼓楼



大雄宝殿



薬師殿



観音殿



日蓮の文字碑石



王羲之の文字碑石

天台山古方広寺は天台山の最高峰は華頂峰で標高 1,138m 所に有ります。



古方広寺(こほうこうじ)



釈迦如来、迦葉、阿難



白玉仏



悟灯さんの、弟子のお二人です。



国清寺から17kmほど山を登ったところにある「石梁瀑布」という滝。